

20030

急性大動脈解離術後4年後に、吻合部破裂を来し救命した1例

症例は77歳女性。他院にて2015年6月 偽腔開存型急性大動脈解離に対して上行置換術施行。術後徐脈性心房細動に対してペースメーカー挿入。以降外来フォローされ、2016年1月に終診。老人ホームにて過ごされていた。ADLは車椅子。2019年2月 胸痛 呼吸苦を主訴に当院救急搬送。CT検査にて吻合部より出血、破裂の所見を認めた為、同日緊急手術となった。手術所見：大腿動静脈確保し再開胸。上行大動脈周囲はカプセルを形成。人工心肺を開始しカプセルを切開すると、末梢側吻合部12時部分が2cm程度裂け破裂。肺動脈にも穿破していた。破裂部分を4-0 プレ付き、バイオグルーを使用し止血を確認した後人工心肺から離脱。手術終了とした。術後経過良好で術後2週間で元施設に退院した。術中破裂部培養検査は陰性であり、感染による吻合部破綻は否定。原因として、初回手術時より既に少量出血をしており4年という歳月を経て破裂をしたものと考えた。今回、術後4年経過した吻合部破裂を経験し良好な結果を得たので報告する。